

研究計画書

PET-CTによる新型コロナウイルスワクチン接種後変化の描出

放射線部 中宮 音雪

・背景

本邦でも新型コロナウイルスワクチン接種が普及し始め、画像検査を受けられる患者の中にもワクチン接種を終えている患者がみられてきている。

ワクチン接種が画像検査に与える影響に関して、ワクチン接種が先行している諸外国からは多数の報告が出ている。

・目的

諸外国の報告では、ワクチン接種部位と同側リンパ節の腫脹および FDG 集積が悪性腫瘍のリンパ節転移の診断の妨げになる可能性が示唆されている。

ワクチン接種を終えた患者が今後さらに増える本邦でも、ワクチン接種が画像検査に与える影響を PET-CT にて描出し、知見の集積や情報の周知を行うことは重要と考える。

・方法

当院にて PET-CT 検査を受けられる患者に対し、ワクチン接種歴を含めた問診を行い、通常通り検査を施行する。その画像にワクチン接種後変化を疑うリンパ節の腫脹および FDG 集積がないか注視し、FDG 集積に対し SUV-max 値の算出を行う。

PET-CT 画像から得られた画像情報(ワクチン接種後変化を疑うリンパ節の大きさや数・FDG 集積の SUV-max 値)と、問診から得られたワクチン接種情報(種類・接種日・接種箇所など)とを集積し、統計解析を行う。

・倫理的配慮、個人情報の保護方法

ワクチン接種歴や PET-CT 画像などの患者情報情報は十分にマスキングを行い、個人の特特定がされないように厳重に取り扱う。得られた情報はパスワードが設定されたパソコンや USB 内に保存し、USB は施錠可能な棚に保管する。研究終了後はパソコン・USB 内のデータを削除する。